

- 会議名 令和6年度 第3回八雲町社会教育委員会議
- 日時 令和6年12月12日(木) 午後6時30分～7時30分
- 場所 八雲町公民館 第1・2集会室
- 出席委員 11名
間瀬龍生、林聖、鈴木馨、吉田久子、小林元彦、小出政彦、河西大眞、前川伸也、小野礼子、寺田裕、長谷部修
- 説明員 教育長、社会教育課長、社会教育課長補佐、文化財係長、社会教育係主任、熊石教育事務所教育推進係長

*傍聴者なし

《会議録要旨》

- 1 開 会 社会教育課長
- 2 あいさつ 八雲町教育委員会 教育長 土井 寿彦
八雲町社会教育委員 委員長 小林 元彦
- 3 議 題
1) 令和6年度 社会教育課・熊石教育事務所所管事業実施報告について

○説明員から説明する。

委 員～1ページの「ミニ金魚ねぷたづくり講習会」と5ページの「あんどん型山車づくり講習会」について、昨年から見ると急に参加者が減っているが、何か要因はあるのか。

説 明 員～「ミニ金魚ねぷたづくり講習会」は、昨年度までは4月に実施しており、子どもが小学校に上がって初めて物づくりができる事業ということもあったせいか、これまでは子どもの申し込みが20人ほどあり、定員の15名を超えるような状況であった。この事業は「あんどん型山車づくり講習会」と講師が同じであることから、両方の事業を合わせて実施しているが、今年度はこの事業を主管している山車行列実行委員会と相談して、開催時期を秋に変更したため、子どもの参加の減少にも関係しているのではないかと考えている。

「あんどん型山車づくり講習会」は、秋に教育委員会が主催して実施し

たが、これとは別に山車行列実行委員会が主催して春に同様の講習会を実施しており、そちらの方に参加者が集中した。特に、春には町内の中学校や高校の美術部の生徒の参加があったが、秋には生徒の参加はなく、参加人数が減ったと考えている。

委員～開催時期をずらした事だけが要因なのだろうか、というのは、自分は子ども会をやっているが、今年は行事をやっても参加する子どもが少ない状況。コロナも明けてもう活発に活動したい時期なのだろうけれども、参加の意欲が子どもたちにあまり感じられないというのも実感としてあり、その要因が何かというのは分からないが、社会教育事業も参加者が減っているのを見ると何か関連があるのかなと思う。

委員～3ページの熊石の事業で、「カタカタぬりぬり」が2年続けて中止になった経過はあるのか。また、下から2段目の「少年文化財教室」も2年続けて参加が無いようだがどのようになっているのか。5ページの「女性活動リーダー養成国内研修」は隔年実施ということで今年が実施年だと思うが、今年度も年度が押し迫ってきているので、現状でどのような計画になっているのか教えていただきたい。

説明員～「カタカタぬりぬり」については、泊川集学校とのコラボレーション事業で、集学校とは地域振興課と他にも事業を多く実施したところであり、この事業については調整が取れなかった。来年度以降、実施に向けて検討していきたいと考えている。

説明員～「少年文化財教室」は、今年度開催を予定している。

説明員～「女性活動リーダー養成国内研修」は、年度当初から主管団体と今年度の方向性について話しているところで、今年は健康や食の分野での研修案があり、具体的な内容については引き続き打ち合わせを続けているという状況。

委員～先ほど委員からの「ミニ金魚ねふたづくり」の件ですが、時期というのはとても大切だと思う。開催するにあたって準備等もあると思うが、例えば金魚ねふたであれば、本場の青森だとお祭りが始まる前にあちこちにぶら下がっているような物であり、それを見てねふた祭りが近いとみんながわかるというような意味もあると思う。そういったやる事柄の意味も考えて

時期を考えていく方が参加者もその意味を理解するのではないか。
もう1つは2ページの「国際交流事業」と「英語で遊ぼう」ですが、これはまだ未定となっている。内容は割と似た内容になっている、違いは何か。
以前も話をしたが、例えばこういう事業で一緒に料理を作ったり体を動かしたりして、いわゆる健康というものを、外国人の先生と一緒にやると、事業に広がりができると思うが、いかがか。

説明員～「ミニ金魚ねふたづくり講習会」は、委員のご意見のとおりと思う。依頼している講師は弘前のねふた絵師であることから、ねふた祭りの前より後の方が材料などの準備がしやすいという事情もあるようですので、これらも合わせて、開催時期について検討していきたいとう。
「国際交流事業」と「英語で遊ぼう」の違いは、対象年齢の違いで、「国際交流事業」は小学生を、英語で遊ぼうについては未就学児を対象としている。

説明員～保健福祉サイドの事業などについては、現在、保健福祉課の担当者と協議している。また、社会教育委員の団体育成部会が計画している団体交流会に保健推進委員も案内し、実際のところ、どのような活動をしているのか、情報交流等を行えればと考えており、後ほどの部会活動で相談したい。ご提案のあった社会教育事業等に案内するという点についても、今後検討していきたい。

2) 令和6年度 社会教育委員各部会活動報告・計画について

○**説明員**から説明する。

◆質 疑 特になし

3) その他

○**説明員**から当日机上配布したマイプラン学習講座について説明

委員～これは八雲町が寿都町のように地層処分などに取り組もうとしていて、それに対してということであればまだわかるが、そのような状況でもないのに、公費を使って学習会をする必要性はあるのか少し疑問に思う。

説明員～講演会の中身の部分だと思いますが、マイプラン学習講座に関しては、町民の方の学習活動の推進を図るということになっておりますので、町の方針に関わらず、町民の方の学習したいという内容に関して町民の方の学習をサポートしていくという考えでおります。

委員～町教委として問題ないという判断であればよいが。

委員～ルール上は毎年同じ団体が申請でもいいのか。例えば今年は3件の枠ですが、毎年同じ団体が継続して申請するのは問題無いか。

説明員～現在の要綱には特にそのような縛りはない。

委員～先着というのがなかなか厳しい。年度当初に申請を受けて、ここで意見を交わして、教育長が決定するというのであればいいのですが、先着というのが少し引っかかる。

委員～その3つの枠が毎年ふさがるとは思いますが、もし同じ団体がまた来年も申請となると、特定の団体が毎年マイプラン講座を使うことになり、これはどうなのかと思う。例えば1回使ったら2年位は使えないとか、そんなルールも作っておいた方がいいのではないか。公平性に欠けるような気がする。仮に後から駆け込みで2つ、3つ申請があった場合、もう枠がなくなった場合はどうなのか。その辺についてある程度ルールを作っておいた方がいいのではないか。

委員～PRの問題というもあるのですが、もう少し町民に周知して、ある程度次年度の申請を年度当初に協議できるような、ちょっとした工夫があってもいいのでは。

説明員～先着順というやり方ではなくて、募集時期を例えば2回にする、であるとか、せつかく我々としても確保した予算であるので、学習をしたい団体の皆様には活用していただきたいなという一面もある。

委員～この講座で実施した事業に参加したが、事前に聞いていた会場と違っており、町から車で移動が必要な場所だった。実際は送迎してもらったが、その講座の後に、団体が主催する有料の事業があり、自分はそこに申し込んでい

なかったので、その事業が終わるまで2時間ずっとその会場で待ち、集合場所に戻ってきたのは夜10時過ぎになった。そのようなことにならないように、実施する団体には一工夫いるのかなと思う。子どもの参加も考えると配慮が必要ではないかと。そのような事も含めて審査をお願いできればと思います。

委員～申請時と実際の開催場所が違うというのはどうなのか。申請内容と事業の内容が違うのであればお金を返還させるのもありえるのかもしれない。通常であれば、申請と内容が違えば助成の対象にならないという事で返還とことになる。その部分も含めてルールを見直した方がいいのではないか。

説明員～もし変わるのであればきちんとこちらに届けてもらえればというのはある。場合によっては助成が成立しないことも考えられる。

○**説明員**から本日の会議における机上配布の冊子類について説明。

◆**質疑** 特になし

4 閉会

会議終了後、総務部会員に残っていただき、来年1月の総務部会の日程について協議。開催日を令和7年1月20日（月）に決定した。